

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	地理歴史科	科 目	歴史総合	学 年	1 年	類 型	商業科
単位数	2	教科書	歴史総合 近代から現代へ		出版社	山川出版社	
副教材	歴史総合 近代から現代へ ノート 新詳歴史総合						

学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

授業の概要

- ・ 18世紀から現在までの近現代史を対象とし、300年にわたる「世界とそのなかの日本」について学ぶことで、世界と日本との深いつながりを学ぶ。
- ・ 近現代の歴史を学ぶことで、現在の世界がどのように成立したのかを理解し、様々な視点を持つことによって、現代の諸課題について考察する。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・ 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	・ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト(小テスト)・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題レポート・授業時の観察など	学習への参加状況
備 考	・ 観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・ 「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとまりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	第Ⅰ部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界	・16世紀にはアジア各地で大帝国が繁栄していたこと、ヨーロッパ各国がアジアに進出し、世界的な規模で経済が発展していったことを理解する。 ・ヨーロッパで成立した主権国家と主権国家体制について、その特徴を理解する。 ・ヨーロッパ人の海外進出について理解し、その影響について考察する。	1 学期 中間考査
	第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯を理解している。 ・市民革命や産業革命が現代社会に与えた課題について、解決策を追究しようとしている。 ・市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現在社会との関わりを考察し、自分の言葉で表現している。	
	第3章 明治維新と日本の立憲体制	・明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について理解している。 ・明治維新の意義について、現代への影響と関連付けて考察し、自分の言葉で表現している。 ・明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会にどのような課題を与えたかについて考察し、解決策を追究しようとしている。	
	第4章 帝国主義の展開とアジア	・欧米諸国の帝国主義の動き、日本と東アジアの関係、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の進出などを基に、19世紀から20世紀初頭にかけてののアジアの政治と社会を理解している。 ・19世紀から20世紀初頭にかけてのヨーロッパアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、19世紀から20世紀初頭のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している	
2 学期	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解している。 ・勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現在の社会につながるどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。	1 学期 期末考査
	第6章 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解している。 ・大衆の戦争への加担という問題を現代社会における課題としてとらえ、その解決策を追究しようとしている。	
	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	・冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解している。	
		・国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際関係を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかを考察し、自分の言葉で表現している。	
3 学期	第Ⅲ部 グローバル化と私たち 第8章 冷戦と世界経済	・55年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解している。 ・冷戦下の日本と世界の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自分の言葉で表現している。	2 学期 中間考査
	第9章 グローバル化する世界	・冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解している。 ・グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自分の言葉で表現している。	
	第10章 現代の課題	・グローバル化のなかで福祉国家体制のなかから、新たに登場した新自由主義について理解している。 ・地域紛争やテロ、難民に対する排外主義の問題について、原因・過程を理解し、どのよう	

	に対応していけばよいかを考察している。	学年末 考查
--	---------------------	-----------